NIE実践報告

1．タイトル：☆地域の「商店街」を調べよう

2．学校名

新潟県新潟市立寄居中学校

3．実践者名（代表者名）

浅見博幸

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　29人

6．単元（本時の学習課題）名

身近な地域

7．目標(狙い)

①新聞記事の切り抜きから一般的な商店街の現状について把握することができる。
②話し合い活動において自分で考えをしっかりと述べることができる。
③小集団学習を通して、他の生徒と協力しながら課題解決に取り組み、共に高め合うことができる。

8．評価の視点

①新聞や地図、統計資料などの読み取りを意欲的に行うことができたか。（関心・意欲・態度）
②今日の授業の課題に対して、自分の意見を持つことができたか。（思考・判断）
③小集団での話し合いなどの活動に協力的であったか。（関心・意欲・態度）

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

身近な地域［社会：12時間］

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①「地形図の読み取り」地形図の約束の確認や新旧地形図の比較。（3時間）
②「商店街現地調査」　地域の商店街調査及び店舗分布図の作成。（3時間）
③「情報収集活動」　新聞記事の切り抜き、新潟市の商店街及び大規模小売店の分布図の作成、統計資料からグラフの作成と読み取り。（3時間）
④「地域商店街の実態把握と問題点の検証」
収集した情報から課題を見いだし、課題解決学習を行う。（3時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

課題解決学習では「次の大規模小売店の出店先予想」をした。これまで収集した情報をもとに小集団で活発な話し合いをすることができた。この課題を通し、間接的に車社会への対応といった商店街の問題点に気づくことができ、地域の活性化などに問題意識をもつことができた。

12．成果と課題

商店街をキーワードに切り抜きし、その新聞記事から一般的な商店街の様子を確認した。それにより身近な地域の商店街との共通性を捉えさせることができた。また、活性化に取り組む人々を紹介した記事を活用し、地域の将来に対する問題意識を高めさせることができた。まだ十分に新聞を活用しきれたとはいえないが、今後2、3年生で学習する地域の歴史や地方自治の単元につなげる実践ができた。